

第6回 鎌倉市観光基本計画進行管理委員会 会議録（公開用）

日時：平成21年10月16日(金) 10:00～12:00

会場：鎌倉市役所 第一委員会室

出席委員：古谷委員長 中根副委員長 久能委員 藤川委員 牧田委員

アルバレス委員

出席職員：相澤市民経済部長 梅澤次長 観光課長 菅原係長 木田主事 荻田主事

傍聴者：なし

議事の概要：1. 開会あいさつ

2. 庶務事項

(1) 会議の公開等について

(2) 委員会のスケジュールについて

3. 審議事項

(1) 平成20年度の実績評価について

(2) 平成21年度評価報告書の内容等について

4. その他

(1) 次回日程確認

(2) その他

5. 閉会あいさつ

1. 開会あいさつ

委員会開会のあいさつの後、欠席した委員の確認と異動職員の紹介を行った。

2. 庶務事項

(1) 会議の公開等について

事務局から資料の確認と傍聴の応募者がいなかったことについて報告を行った。

委員長：

傍聴者がいらっしゃらないということなので、引き続き進めたいと思います。スケジュールについて事務局から説明をお願いします。

(2) 委員会のスケジュールについて

事務局：

資料1をご覧ください。まず始めに推進体制のスケジュールとしまして、一番左の列ですが、今年度の本部会議のスケジュールとしては、これまで2回の会議がありまして、4月23日に21年度の花火大会について、5月29日には20年度の取り組み結果や21年度取り組み方針などが議題となりました。次回は12月を予定しておりまして、平成20年度の実績評価と今後の取り組みについて進行管理委員会できりまとめた内容等の報告する予定です。

その他、個別検討部会などは随時開催しているところです。

次に、この進行管理委員会のスケジュールですが、裏面の2ページをご覧ください。この委員会は、本日の会議を含め2回の会議を予定しております。本日第6回目の会議は20年度の実績評価と評価報告書について議論していただき、次回の11月の進行委員会で本部会議への報告書をまとめたいと考えております。

非常に短期間での審議になりますので、会議の合間をメール等で確認させていただきながら、なんとかまとめていただければと思います。

なお、委員会後の予定としては、鎌倉市の観光事情<平成21年度版>を早期に確定しまして、その後、12月か2月議会で報告し、順次公表していくことになります。

最後に3の第2期観光基本計画の期間についてですが、平成18年から平成27年までの10年間をこの基本計画の期間としていますが、5年目で見直しをすることになっております。表にあるように来年、再来年には、これまでの課題などを踏まえ、指標や方向性などを見直す期間と位置づけています。

以上です。

委員長：

21年度の本委員会の日程等について説明がありました、いかがでしょうか。

委員：

今回日程のお知らせを直前にいただきました。会議の性格上たくさんの意見をいただいたほうが良いと思います。今回欠席の委員が多かったので早めに日程のお知らせをお願いします。

委員長：

今回会議が遅れたことに対して、事務局で何か説明がありますか。

事務局：

本来7月頃に第1回会議を実施したかったのですが、メンバー交代というのもありましたし、また観光課の事業として、花火大会の関係で今年度は警察から厳しい警備体制を求められまして、その事務量が増加してしまいました。そのようなことで、開催が遅れたのが実情です。

今後遅れている分を取り戻したいと考えております。事務局では全力を挙げて取り組んでいきたいと考えております。申し訳ありません。

委員：

今日の資料は3日前にいただきましたが、この資料を全部行うのは無理です。会議のスケジュールありきではなくて、この委員会が何を求めているのかの到着点にいくことが大切なことだと思います。会議の回数が2回でいいのか、3回でいいのか、ではないと個人的には思っております。

委員長：

どこの委員会も同じだと思いますが、委員会や審議会のメンバーは、引き続きますが、事務局が人事異動で代わることは必ずありますので、それを見越して専門的な知識を次の方に、会の性格付けなどを伝えていただき、次の進行管理にうまく活かしていくようにお願いします。

市民経済部長：

しっかりと観光課に対して、指導してまいります。

委員長：

次の人事異動のときは、よろしくお願いいたします。今年は、このスケジュールでお願いいたします。今日は議論させていただきたいことが沢山ございますので、審議事項に移ります。

審議は平成20年度の実績評価についてと平成21年度評価報告書の内容等についての2点ございますので、それぞれ30分ずつ位議論して、また、全体で討論したいと思います。

それでは、平成20年度の実績評価について事務局説明をお願いいたします。

3. 審議事項

(1) 平成20年度の実績評価について

事務局：

資料2をご覧ください。表紙をめくりまして左側1ページになります。

20年度の実績ですが、20年度は19年3月に策定した「第2期観光基本計画」を着実に推進するため個別検討部会を中心に取り組みました。また、昨年10月に本委員会から出された5項目の提言の実現に向けてイベントの開催や検討を重ねてきました。

そこで、提言項目ごとの取り組み内容を説明させていただきます。

1. 市民の理解を深める取り組みの充実では、昨年11月に市民に「鎌倉らしさ」を再発見、再認識していただくため、鎌倉散策や建長寺でシンポジウムを開催し、たくさんの市民の方々に参加いただきました。このシンポジウムには、本委員会から中根副委員長や牧田委員、久能委員にもパネルディスカッションにご参加いただきました。

また、観光振興の取り組みについて、市民からの理解を深めるため、本日お手元の資料としてお配りしております、観光振興推進本部のパンフレットを発行しました。これからも推進本部の取り組みを積極的にPRしていきます。

次の2.点から面への連携強化についてです、イベント活動を行っている団体に参加していただき、団体相互の交流や情報交換などを目的とした「イベント連絡会」の立ち上げに向けて準備をしております。

3. 各種統計データの充実では、データを収集してそれを活用していくことが重要となっております。データの分析や活用方法については、課題となっておりますので、入込観光客数調査などの連続性のあるデータや今後必要になるデータをどのように活用するかについて検討してまいりたいと思います。

4. 情報共有と情報発信のシステム化では、市と観光協会、商工会議所の担当でワーキンググループを作り観光客が欲しい情報の一元化の仕組みについて検討してまいりました。

5. 観光を横串とした地域連携の体制作りでは、2.で説明いたしましたイベント連絡会やワーキンググループを活用した情報の一元化を充実させることで、地域連携を行いやすい環境が整うと考えております。

次に5ページにいきまして、推進体制とその活動状況についてですが、表にありますように、推進本部、7つの個別検討部会、個別イベント対象のセミナー、庁内連絡会議、さらにこの委員会とPDCAサイクルを回すための体制となっております。

特に、個別検討部会では、個別の検討事項について議論を重ね、少しずつではありますが、成果物や提言などがまとめられてまいりました。個別検討部会の審議内容の概要は、7ページから11ページにかけてまとめてございます。

また、PDCAサイクルを回すために重要となる「鎌倉市の観光事情<平成20年度版>」も当委員

会のご協力を得て無事に発行できましたので、具体的なデータを基にした議論ができるようになったと思います。

次に、13ページをご覧ください。目標指標の20年度実績数値ということで、13ページから26ページまでにまとめてございます。

観光客の満足度は、73.9%と前年より3.7ポイントの上昇となり、17年度の策定時点から連続しての上昇となりました。市民の満足度は、80.6%と前年より3.0ポイント上昇し、初めて80%を超えております。

主な要因としては、やはり、公衆トイレの建替え改修や、観光ルート板、名所掲示板などの多言語整備など、観光客が直接目にふれる部分の改善が進んだことが、好印象を得る結果につながったのではと考えられます。

また、観光客数は、1,934万人で、策定時の1,840万人を大きく上回る人出となりました。宿泊客数についても32万8千人と昨年より7.9%の増加になっています。

大きな要因としましては、観光シーズンに好天が続いたことや石油の高騰でいわゆる安近短と安くて近くて短い時間で過ごせる観光地鎌倉が選ばれたとの意見もありますが、本部の所属団体の方々が各個別部会で議論したおもてなしの心等を実践していることが、この数字に反映しているのではないかと考えています。

また、海水浴客数は、好天に恵まれたことにより113万4千人と昨年より15万6千人の大幅な増加となっております。

次に、27ページからは観光課の実績概要として、19年度、20年度の実績をまとめてあります。主なものを紹介しますと、観光基本計画の推進、広報宣伝としては、観光振興推進本部広報パンフレットの作成、フランス語版のパンフレットの増刷などを行いました。

観光施設では、海浜部分にある材木座第一（網干）公衆トイレの建替えと海蔵寺公衆トイレの大規模修繕を行いました。さらに、観光ルート板や名所掲示板などの多言語改修にも取り組みました。

公衆トイレや案内板などの改修状況を地図面に落とししたものが30ページ、31ページに新たに今年から、まとめてあります。

また、観光協会への支援や各種観光行事への補助、広域連携による県外誘客キャンペーンなどにも取り組んでまいりました。

36ページからの市役所内部の各課のアクションプランについては、後ほど説明させていただきたいと思います。

43ページ以降につきましては、それぞれのデータをグラフ等で紹介しておりますので、細かい説明は省略させていただきます。

なお、51ページをご覧くださいと、旅行事業者いわゆる代理店を対象にアンケートを実施し、いわゆる旅行のプロからのご意見であると思っております。

今回は、関東とその周辺の278店舗を対象にし、12.9%の回答率でございました。項目は、観光客の満足度と同様に行っております。その結果、「公衆トイレ」や「市内の交通機関、移動のしやすさ」について、昨年に引き続き観光客の満足度より大変低い結果となりました。しかしながら、トイレや交通機関等の満足度は、観光客旅行事業者、代理店とも高くなっております。

また、資料3資料編の最後の14、15ページには、代理店からいただいたコメントを掲載しておりますが、やはり団体ツアーという立場から、トイレの数、渋滞、バスの駐車場に関するものが多かったのが特徴となっております。

同じく、資料3資料編の8ページから、観光客WEBアンケートの際に寄せられたコメントについて、また、先ほど説明いたしました鎌倉散策と観光振興シンポジウムの参加者に対するアンケートを資料編

の16～28ページに掲載しておりますので参考にいただければと思います。

以上で、説明を終わります。

委員長：

ありがとうございます。まず、報告していただいた内容の事実関係やまとめ方などについて少し議論いただきたいのですが、いかがでしょうか。

委員：

概要のところ、何パーセントという数字が出てきてどのくらいの満足度が高まったというのがありますが、この辺の母数はどのくらいあるのですか。

委員長：

サンプルのデータがありますね。小さいですけども。だいたい800件前後のデータをもとにやっております。

委員：

それでやられているということですね。ありがとうございます。

委員長：

追加で、もしございましたら。

委員：

このやり方の母数が年毎に変化している訳ですが。良くなっているとのこと報告がありましたが、その辺の数字の信憑性のご説明に触れていただくとありがたいのですが。

委員長：

サンプルのとり方など、毎年定点観測しているとか、同じような時期に同じような時間帯でデータをとっているなどの説明をお願いします。

事務局：

年に4回、入り込み観光活動調査といったもので、同じ場所で同じ時期にアンケート調査をしておりますが、これはウェブアンケートも入っておりますので、その分で少し数が前後すると思っておりますが、定点でアンケート調査をしている分についてはほとんど同じ数で調査をかけております。

委員：

大体、どのくらいの比率ですか？

事務局：

一回につき、100なので、400ちょっとは必ず同じ時期に定点でとっているアンケートです。

委員長：

半分がこちらで、半分がウェブということで、そのバイアスみたいなものはないですか。ウェブのほ

うで不満とかいうのは。今すぐじゃなくても調べていただいて。他にございませんか。

委員：

観光客として入ってきたときのアンケートはわかりますが、市民の満足度は違うと思います。

事務局：

これは、資料の13ページ、真中あたりに指標の表がありましてその下の*印の2になります。市経営企画課による第3次鎌倉市総合計画基本計画に関する市民意識調査において、「鎌倉市は観光に高い魅力と独自性のある町だと思いますか」の問に対して、「とてもそう思う」「少しそう思う」と答えた人の割合です。

委員長：

それは集計の仕方であって、今のご質問の趣旨は、市民アンケートをしたときの調査対象の市民の方々が毎年同じ方なのか毎年サンプリングを行って変えているのかということだと思いますが。

事務局：

同じ人ということでしょうか。

委員長：

たとえば、地区ごとのバイアスがないように配布しているのか、あるいは毎年回答率が上がってきたりとかするのか、そういったこともあると思うのですが。

副委員長：

これは、総合計画の住民意識調査の1項目として、実施しているものですね。サンプリングの手法は経営企画のものですか。

事務局：

はい。

副委員長：

毎年同じ手法なり、サンプリングの手法で行っているということです。

事務局：そうですね。その結果が19・20ページに男女別、地域別、年齢別としてでできます。

委員長：

こちらは分かっています。事務局がきちんと答えるかどうかが問題です。なぜかということ、今日ご説明いただいた資料の解釈の仕方とか説明の仕方が若干全体的に弱いかなと思ひまして。本当にきちんと資料のデータを解釈して述べられているのかなというところで、やや疑問に思ったものですから。満足度などは一人歩きしますから、上がっているみたいですが、と書いてしまうと本当ですか、ということになります。データのとり方は毎年同じやり方でやっておりますので、そういった意味では、経年的な企画と言うのは可能だと思いますが、少し例年に比べて、各資料に対する解釈や書き込み具合が少ない感じがしましたので、これで政策資料として出しているのかと思います。

委員：

この素晴らしいパンフレットをお作りになったわけですが、これは、どのくらい作って誰に対してどんな風に対するメッセージと言う風に理解したらよろしいのでしょうか。どのくらいの部数を作って誰に対して何を訴えたいと言うところです。

事務局：

部数は3万部作りまして、訴えたい方は、鎌倉市内に住んでいる方でして、このような計画があること自体知らない方が多いので、まず広く周知をすることが大事という考えのもとに、このような資料を作りました。ただ、観光基本計画の話だけでは、かたい話になってしまって、手にとってもらえないので、色々な方に見てもらえるように後ろのページに工夫をしました。部数については、3万部しか作れなかったのを支所などに置いて少しずつ周知していきます。

委員：

ありがとうございます。とてもきれいで、これを見ると分かるんだろうなと思います。関連してなんですが、今度市長も代わられるということで、この組織がこのまま継続していくのかどうかということです。分からない事だと思いましたが、いかがでしょうか。委員会としては、それなりの意思表示をした方がいいんじゃないのかなと思っております。

市民経済部長：

今、委員がおっしゃったように10月25日に、市長選がございまして、現市長は出馬しておりませんので、新しい市長になります。国も、それぞれ新しい体制になると、従来の路線をかなり検討しているのので、鎌倉市も新しい市長がどうするか、分からない所があります。ただ、観光基本計画というのは、行政の総合計画の下部の個別計画として作っていますので、その内容としても、新しい市長がきてもある程度同じような、認識を持っていただけるのではないかと思います。「住んでよかった、訪れてよかった」鎌倉を市民を交えて市域一丸となって鎌倉の魅力ある町づくりをしていこうということ自体は、異論がないと、私どもは思っております。そのあたりは、まず良く理解していただいて、進行管理委員会の存在についても事務局としても説明していきたいと思っております。なおかつ、この委員会でも観光基本計画や進行管理の意義を発信していただければ事務局としても心強いです。

委員長：

今ご指摘いただいたことが重要なポイントで、事業計画自体が継続できるかということと、パンフレットで市民に周知することが、車の両輪のような気がしております。また、3万部作っていただいた、パンフレットをどうやって周知し、フィードバックしていくのかその辺も含めた情報をうまく活用してこの後に続けていく。見直しのタイミングでどうやって使っていくのかということもできると思いますし、来年度是非考えてもらいたいと思っております。

委員：

実績概要のところ、少し個別になってしまうのですが、このパンフレットは市民の理解を高める取り組みとして本部の活動を知らせる成果物だと思っております。その点で20年度は頑張っていたと思っておりますが、点から面への連携強化というところで、個別イベント連絡会が2月に一度顔合わせとして開催された後、その後どうなっているのか見えていない。せっかくそういうチャンスができたという事は、喜ば

しいことだと思っておりますが、次に繋げていかないと参加した団体からあれはどうなったのか、ということも聞こえてまいります。最低でもこういう方向でいくということを話したようですが、そのあたりは、フォローしないと次に繋がるのが難しいと感じました。それから4の情報の共有と情報発信のシステム化は大事なことだと思うのですが、あまり具体的ではなく、検討をしていますということですが、そのあたりの状況を少し細かく教えてください。

事務局：

こちらの情報共有ということですが、市と観光協会、商工会議所でワーキンググループを作りました。今、それぞれが、それぞれに情報を発信していますので、将来的には一か所で、どこで管理するかの話はおいておき、誰でも情報を得るためには、どうしたら良いのかと言う話はしてありました。しかし、誰を対象に、どのように情報を盛込んでいくのか、という部分が出ていなくて、ただ漠然とした話しになっています。ですから、その輪郭の部分、誰を対象に、どういう情報を、どの人たちが欲しがっていて、それをうまく絡めていくのか、その辺がまとまっていないのが正直なところです。その部分をもう少し詰めていきたいと思えます。

市民経済部長：

補足させていただきます。どういうことが話題になったのかということは、11ページをみるとわかるのですが、若い担当者が集まって出たことを片っ端から言いあって書いたのだらうなと思えます。ただ、それをどういうふうに実を結ばせていくのか、という部分のスピードが大変遅くて、業を煮やした観光協会が、協会のホームページのリニューアルの際に、これを情報の一元化の一つの足がかりにしようよ、というお声掛けを頂きました。私どもも、これはいいチャンスだなというところで、まず観光協会のホームページのリニューアルを足がかりにしながら、そこで、市の観光情報と観光協会が出している情報、場合によっては、商工会議所の情報もホームページ上で発信していければいいなと考えています。そんな状況です。

委員長：

ご指摘の1点目は、イベント連絡会のこともあるのですが、この委員会の重要なところは、推進本部で議論されて各個別検討部会が動き、その結果が推進本部にあがってきて、何が重点課題で何を検討すべきか、ということをご議論して結論を出すわけです。それをこちらに投げいただくことが重要な仕事です。ここには、推進本部でこういうことがありました、との表は出ていますが、その辺りの重要度を含めた情報提供がされていないので、不満があります。推進本部でイベントを含めた各個別検討部会がどのような報告をし、推進本部でどのような検討がなされたのか、且つ何が重要だったのか、報告をしてください。もう一つは情報発信の仕方については、ターゲットを見据えて発信するとか、いろいろ関連資料に報告をあげていただいておりますが、いろんな観光客の方や市民の方があがっているだけで、どこが重要な観光客なのか、どこが重要な市民なのか着目すべきところがどこなのか整理されていなくて分かりにくいです。そこも踏まえて5月の推進本部の結果が説明されていないので、追加で説明してください。

市民経済部長：

20年度の活動報告を5月に行ったものが今の実績報告であり、そこで部会の取組み状況を報告しております。これ以上の動きとしては、事務局は20年度分しか書いていませんが、花火大会ではその後実行委員会を立ち上げ、市役所も積極的にかかわった中で、花火大会をやっていました。ホスピタリ

ティにつきましては、5月の会議の時に部会から具体的な提言がなされております。具体的にはホスピタリティ宣言を鎌倉市がする、バッチとかスローガンなどの内容を鎌倉市・観光協会・商工会議所がそれぞれ、実施するといいいのではないかと、などの具体的な提言がなされています。それから国際観光につきましては、具体的な外国語のサンプルを部会で作成しました。実際の冊子にしていくのを観光協会がかじ取り役になってやっていただき、観光協会に投げまして、国際観光部会と協議しているところです。この部会の中では、内容について見直したいということも聞いておりまして、内容がまだ確定しておりません。観光客マナーにつきましては、提言を受けまして、20年度に従来からあった課外授業ガイドに、子供向けマナーページを作りました。さらにこの内容を修学旅行の人たちにホームページで発信しております。21年度は大人向けをどうするかを検討していきます。トイレ部会につきましては、市としても重要な課題だと思っております。今ある公衆トイレについては、着実にっておりますが、民間協力トイレをどうしていくかが話題になっております。実際に小町通り商店会と話し合いをしておりますが、積極的な良いお話をいただいているというところで終わっております。さらに、市独自の施策として駐車場の一角に所有者のご協力をいただいて、トイレができないかやっておりますが、それもまだ実現しておりません。ここの進行管理委員会で話題になったトイレから次のトイレが分からない意見につきまして、21年度予算でトイレの入口にトイレの案内をしようと予算計上しておりますが、まだ具体的にどういう板面にとすることは固まっておりません。また、トイレの地図についても検討しております。それから観光事業者がトイレの不満を持っていて、トイレは汚いと先入観を持っているようなので、綺麗なトイレの内部までホームページ上に載せていく予定です。これが説明できる取り組み状況です。

委員長：

説明していただいた内容に基づいて、ここはスピード感をあげて行ったほうがいいのではないかとか、ご意見をいただきたいと思っております。

委員：

まずイベント連絡会ですが、この立派な資料は2009年度版ですが、2010年度版を作る計画はありますか。

市民経済部長：

予算はついておりません。予算はないがどうにかせよとか、ホームページを活用せよとか、民の力を借りてやればいいのか、そのような意見がいただければありがたいです。

委員：

全ての項目に準備をしているとか、検討しているとかなので、いつまでに何をすることが色々なところで抜けていると思います。イベントもそれぞれのやっている内容を羅列しているだけなので、イベントに参加したい方、また連絡会に参加したいという団体が出てきたときにどのようなアクションを起こせばいいか、このページにない。連絡先とかもこのページにないので、それを補うために最後のページに観光推進本部の連絡先が出ていただけなので、ホームページ上でこの次のアクションを作って、次にこのようにして活動していくという何かをした方がいいと思います。例えば、20年度の集まりはいつやってそれまでに応募された方は、こういう基準を基に参加できませんとか、折角作った連絡会が今後生きていくような仕組みを作った方がいいと思います。

委員：

これは推進本部のパンフレットですよ。

委員：

パンフレットになってしまうとこれが情報になってしまうので、折角作った連絡協議会も次のアクションが起こせるように情報提供をされたほうがいいと思います。国際観光の部会で外国人向けのパンフレットの項目は、いつまでに作るというのは決められると思うのですが、大事なのはどこで配布するかだと思います。内容を精査するとともにできあがった時点で、本当に外国人の方が手に取れるところに、駅の観光案内所だけだと弱いと思うので、色々な商店と協力するとか、寺社の拝観料払うところの隣に置くとかそのために今から協力要請していくとか、そういうことが大事です。できあがった後のこともスケジュールに入れて検討していった方がいいと思います。情報発信ですが、観光協会がホームページをリニューアルされますが、作る側の便利さが先に立っている気がして、実際に見る側、観光客にとって魅力的なのか、どこにその情報があったら分かりやすいか。その視点でも考える必要があるのではないかと思います。観光協会のホームページも実際たくさんの方が書かれていますので、情報を必要とする側に分りやすい方法を検討する必要があるのではないかと思います。

委員長：

ありがとうございました。重要なお指摘で観光の事業全体を含めた情報へのアクセシビリティの問題と、アクセスできてもアクションできるかななどのフェーズの問題とかありますので、ご指摘いただいたものを整理していただければと思います。市民も観光客もどこに入ってこられるのかが大事なことから。もう一つ重要な指摘は市民の理解を深める取組みとか、点から面とか地域の連携強化を行って、情報発信や市民向けシンポジウムなどをどのようにフィードバックして繋げていくのかということですね。1回やってみて次に繋がっていくのか、今回の実績概要では全体が見えにくいので、そこも含めてしていただければと思います。今年度予算がないから、ということですが、今年やらないが来年やるとか、そのあたりの構想を話してください。

事務局：

シンポジウムに関しましては今年度開催する方向で動いております。今後は隔年で進めていく予定です。前回は市民の方を対象に鎌倉の再発見ということでしたが、今年度は外国人から見た鎌倉とテーマを変えたものでどうかという議論も出ています。しかし、まだテーマは確定していませんが、本年度実施していきます。

委員：

一般の観光客とか観光業者にとって、観光というのはものすごく幅広いものです。我々の検討しているのはこの部分ですが、例えば世界遺産は実際に来られる人にとって、関わりのある興味事項でもあります。その情報などは主たる情報でないと思いますが、現在はこのような状況であると、観光という横串で色々なことをやっていこうという部分もありますので、どこかに様子とか触れていただけないのではないかと。結局この冊子を見る方が、組織的には我々と関係がないというかもしれないが、来る人にとっては注目事項であるかもしれない。

委員長：

時間もありますので次の議題に進めていきたいと思っております。次の議題について説明していただ

きたいと思います。

(2) 平成21年度評価報告書の内容等について

事務局：

A3版のアクションプラン進行評価表チェック表に基づき、アクションプランを説明いたします。昨年同様、3つの目標の項目ごとに、各課の実施した事業の概要を、また関係団体等の欄に推進本部に参画している30弱の団体、関係機関に照会を行った結果を掲載しています。また今回から、イベント連絡会に参加予定の17団体にも照会を行い同じく関係団体等の欄に掲載しています。

イベント連絡会の新しい項目として、2ページイ)「いつでも、誰もが鎌倉らしさを楽しめる」まちにしようの関係団体等欄の3番目にイベント連絡会の活動として極楽寺・稲村ガ崎アートフェスティバルの開催、鎌倉骨董祭の開催、3ページの関係団体等の下から3番目にもNPOフェスティバルの開催などを掲載しました。

昨年と比較し、市の実施事業で新たな取組みとしては、4ページの目標1エ)鮮度の高い情報を積極的に発信・提供しよう。産業振興課のお店照会ホームページの充実で業種別検索機能の拡充。

5ページ目標2伝統と快適性の調和した観光空間の実現ア)の一番上 世界遺産登録の推進で文化庁と4県市委員会との共済による国際シンポジウムを開催したこと。

同じく目標2イ)7ページ下から4 観光案内標識等の整備充実で総合案内板の改修とハイキングコース入口案内板の設置をしました。

9ページ 目標2ウ) 一番上の公衆トイレの整備として、材木座第一公衆トイレの建替え改修と海蔵寺公衆トイレの改修を行ったこと。

同じく9ページ中ほどのまち美化の呼びかけ充実として、路上喫煙防止条例を交付し、路上喫煙禁止区域を指定しました。主なものは以上でございます。

またその他、提言につきましては毎年変更しなくてもいいのではないかと意見もいただいております。昨年の提言に優先順位をつけたほうがいいのでは、また提言を実施するにあたって具体的な手法まで踏む込んだアドバイスを載せることもよいのではとの意見もいただいております。最後に今後の提言についてのご意見をいただければと思います。

以上でございます。

委員長：

去年どのような提言をしたか差分の分かる資料はありますか。もちろん毎年提言を変える必要もないですし、非常に重要な課題については中期的に取り組まなければならないものなので、提言は毎年変えないほうがよいのですが、その点も含めて去年も同じような作業をしたと思いますが、アクションプランのチェック表でどのような意見が出ていたか分かる資料はありますか。一年目なので、個別の事業に対してはそれほど出ていなかったと思いますが。

事務局：

観光事情の平成20年度版のなかの2ページ目と3ページ目でございます。

委員長：

去年は時間がありましたが、今年は時間がタイトなのでどうかということです。各チェック項目に対して去年意見を出していないということであれば、今年はさらにチェックをするということも考えられますし、項目自体を変えるのかも含めてご意見をいただきたいと思います。

副委員長：

今の個別の施策を具体的に優先順位をつけたりする評価というのは、この資料ではできないと思います。ひとつひとつの事業の内容を存じ上げていないですし、何を整備したかということだけで、優先順位の高い低いはつけられないと思います。取組み自体がこれだけ書かれているなかでもその取組みが効果なり価値があるかという視点と、コメント的にアドバイス・サポートするような意味合いでないとプライオリティをつけるということはこの表ではできないと思います。先ほどの議論の中で、20年度のまとめ方のこともあるのですが、実績の評価で一番コアなところは、資料2の7ページから11ページだと思います。今の鎌倉市の行政施策としては具体的にこういう事業をやりましたということはわかりますが、観光は市の話だけではありませんから、むしろ民間なり市民も含めて活動が活発になって欲しい、理解して欲しいというところがどのような形で広がっていったか、あるいは、どのように仕掛けていくかが見えるようにするのが大事であって、個別検討部会において、誰がどういう議論をし、次に向かってどういう方向に向おうとしているのか、極力分かる形でこの7ページから11ページまで検討された議論された内容をフィードバックしていただきたいと思います。個別検討部会の事務局は鎌倉市なのでしょうか。

事務局：

内容によって、市であったり、観光協会であったり、あるいは商工会議所であったりします。

副委員長：

個別検討部会のメンバー体制は、この表にできれば入れていただきたいと思いますが。

事務局：

資料3でそれぞれの部会のメンバーをまとめています。

副委員長：

失礼しました。このような議論をしたというだけではなくて、まだ、検討する余地がある段階なので、もう一回二回こういう議論を進めるということが決まったということが、あるいは目標が定まったということであつたら、それに向けて具体的な行動に入るとか、この辺をこのような人が集まってこういう議論をしましたとかだけではなくて、運営や進行など、どこで誰が合意をして進めようとしているか。そこで行政主導でやっていって煮詰まったときに、観光協会や商工会議所など民間主導でいけるし、こっちの方が早いとなつたら、こういう会議などは民に組織、団体を移していったほうがよいとか、どのような課題が出されて、どのような取組みをしていくのかというのが反映して、行政のハードだけではなくソフト施策がきちんとリンクしているのかというのが重要だと思います。資料2のあたりを過去に遡ってまとめていただけたらよいのではないのでしょうか。

委員長：

各個別検討部会があつて、本部があつて、この委員会があつて、チェックと評価があります。アクションプランのチェックについては、出されたアウトプットに対してアウトカムがどのくらい達成されて

いるかの作業なので、結構短期間で行うのは難しいですが、その作業をするのに個別検討部会の意見も吸い上げずにやっていいのかという問題もあります。出された事業成果、達成度の評価をどうやって見比べるといいのかが結構大変だと思います。そもそも昨年と同じスタンスでこの場で棚卸をして意見を求めるという方法もありますが、現実的に無理かなという感じですが。

副委員長：

アクションプランの個別の事業の内容をひとつひとつ進捗状況をここで議論するのはとても難しいのではないのでしょうか。

委員長：

去年は若干時間もあったのでできましたけど、せっかくまん中の年なので、やり方も含め見直すこともいいのではないのでしょうか。そのうえで次回までに意見をまとめるという作業も必要ですが、試行錯誤している段階なので、今ならまだ軌道修正も可能だと思います。一方で調査結果が出ている昨年度からのデータが出たとして、一方でチェック表自体は観光関連行政に対するチェックであって総点検みたいなもので、これはある程度行政の方でやられて、ここは課題だったとか進展があったとか可視化することがいいと思います。このチェック表を読んでも時間がかかります。なので、先ほど各大項目ごとにここが変わりましたとか、進展があったとか説明を受けたんですけど、その辺をある程度可視化した資料を作っただけならば、ここで議論することは可能だと思います。そうでないと我々は行政コンサルじゃないぞということになります。今ならまだ軌道修正ができるので、そのあたりも含めてやり方を決めて、時間が限られてはくるとは思いますが、次回意見を伺うというやり方ではいかがでしょうか。

委員：

チェック表は昨年との比較で書かれていますが、例えば去年は 〇〇 を何回開催で、20年度は何回開催というようにそのままと何の評価もできなくて、実施が減っているとか、昨年とほとんど同じだとか、ノベルティを作ったところは、そのノベルティをここで見せてもらってというような話しになってしまうので、評価の内容を目標項目に落として、去年の提言の内容を反映したところはどこののか、ここが提言の内容を実施したなど、そこだけの評価してはどうでしょうか。評価しようのないものはここでは掲載しないほうがよいのではないのでしょうか。

委員：

まず、個別部会のチームでうまくやっているのかどうかを把握する必要があります。100という目標を立てたときに7割まで達成したとか、8割まで達成したという評価があって、それを事務局でまとめているわけですから、そこでうまくいったとかいかなかったとかを受けて我々が見て、それは比較的うまくいっているとか、部会は80と評価しているけど50くらいではないかとかこういう話ができると思います。ですから、三段階くらいに分けて我々が意見を言える形にしてもらうと手法としてはよいでしょう。全体的な会議が開催できなければ、委員長さんや副委員長さんにヒアリングをしてどのくらいなのかということでもいいと思います。

委員長：

年度間での事業実績での差分を書いているだけで、蓄積についてはまったく言及されていません。例えば、外国語のパンフレットにしても何語と何語は過去に作っていて、今年は何語を作ったかといった情報が分からないので、その辺の情報と各部会で検討されたこととの整合性のデータがあるといい

のですが、これらの作業を事務局でやるのは大変だと思いますし、難しいと思います。

副委員長：

これだけある個別の事業評価をするのはちょっと難しいと思います。では、何をやらなくてはならないかという、基本計画を作りまして、目標1からそれについて鎌倉らしさの再認識と鎌倉らしいもてなしをしようというものを掲げて、これに対して縦の項目で関係団体、行政としてこのようなことをしていますとありますが、目標1のAの実現のためにこの項目なりこの事業でいいのかという審査をするのが一番ふさわしいのではないかと思います。端的にいうと今の例ですが、Aの項目に対して子供向けに冊子を作ったということはいいと思いますが、もっと上のホスピタリティ推進運動のような観光業界のプロの人たちのホスピタリティの検討を行ったということは、当たり前のことであって、もっと具体的にやるべきではないかと思います。全体のバランスでいうとこのような最前線の人達こそもっと質の高い研修をするなど、具体的にやるべきではないのかなどの意見を出したりとか、全体の目標の実現に対してこの施策の構成がいいのかどうかいろんな立場で議論が出てくると思います。

委員長：

重要なのはチェックの仕方で、去年は時間がタイトな中で資料を見てチェックしました。全体的にアウトプットは出てきているのですが、アウトカムが出てきていません。この表であげられているのはほとんどインプットなので、インプットに対してどういうアウトプットが出るかという比率というか差分をみて、初めてアクションプランの目標であるとか、各項目について評価ができると思います。その資料があればなおよいというのが私の意見です。また、既に資料2で出している満足度の評価などの項目について、どういう整合性を取るのかとか、かなり政策的なインプットがあるのに対して、満足度などのアウトプットがあることを含めてアクションプランのチェック表のアウトカムがどうやって評価できるか、その作業について副委員長を交えて一回議論する場があればそのような作業ができると思います。今年それができないにしても来年それをやるつもりでチェックについては、皆さんにお時間をいただきたいと思います。今年はそこが難しそうであれば、引き続きこの意見のとりまとめ作業を進めるということでもかまわないと思いますがいかがでしょうか。次回埋めるにしても11月半ばか後半だと思いますが、そのタイミングまでにもう一度みていただくにしても、このインプットに対してどのアウトプットと比べればいいのかを事務局と我々で一回議論して、委員の皆様にご覧いただきやすいようにできればと思います。そうすれば来年以降につながると思います。今までの資料が悪いというわけではなくて、もっといいものを作りたいということなのですが。

副委員長：

私、30分に失礼するので、最後にちょっと。今、委員長がおっしゃったように、これがある目標なり、実現するための手段、手法としていいかどうかということですが、一つは、計画を掲げたその上にある目標、方針を実現するのに理にかなっているかということ、もう一つは、これをどうやって誰が進めるのかということの話は、つき合わせたときは、先ほどの個別部会などでの議論やその意思表示などと合致しているか、あるいは足りない点があるのではないかと。それは施策だけではなくて、個別部会の方に対しても、むしろメンバーを広げたほうがいいのか、絞ったほうがいいのかという話もあるかもしれませんが。その辺のところはほとんど数字で評価することにならないので、難しいのですが、対応させて見えやすくすることが大切なのではないかと私は感じています。

もう一点、市民や観光客、旅行会社のエージェントなどのアンケートの批評がありますけれども、これは私見ですが、旅行会社の評価が観光客に比べて低いというのは、無視して良い訳ではないのですけ

れど、気にする必要はないと思います。旅行会社はやはり団体で来て、鎌倉がそういうスタイルにフィットしているかどうかという視点で見ますから、今の環境とか、個人のお客さんが望んでいる視点からいうと、むしろバスで来ないほうが良いという時代なので、旅行エージェントがこう言っているから、土地を広げて駐車場をつくりましょう、100人入れる飲食店を作りましょうとかいうのは、短絡です。皆さんお分かりになっているでしょうけれど。鎌倉ほどの観光地は旅行会社や旅行商品がそれに合わせなければいけない時代になっているのですから。

委員：

この項目を一つ一つチェックしていくというのはやはり無理があると思うんですね。各部会ごとにこういう目標でここまでやってきたけれど、残りのこれだけはまだ課題としてあるので、それを皆さんに意見として聞きたいとか、あるいは自分達がやってきた成果の中で、本当に我々はこれを目指してやっているけれど、皆さんの意見としてこれでいいですか、みたいなことであればできると思います。しかし、これを一つ一つ、計画がうまく順調にしているものも評価するというのは、これは時間的に無理なんじゃないかと思います。むしろ、パートごとに集約された中で、これからやろうとしてもどうしても課題として上手くいかない、皆さんのお知恵を拝借したい、という討論の仕方のほうがいい気がします。

委員長：

そうですね。このチェック項目については受け皿があると思うんですよね。この項目はこのワーキングが受け皿となっている、その上で、去年はワーキングが立ち上がってなくて我々がやっていただけですけども、この評価というのは各ワーキングがある程度評価をしてあげてきて、出来たところと出来なかったところを含めて意見を出していただいて、それを我々が答申をする方が、建設的というか、作業も効率的という気がしています。今年はそういうスタイルではないのでしょうか。

市民経済部長：

私なりに気になっていたのは、少なくとも実績概要として出すということは、事実を述べることでなくて、やった事実と、実施した内容と成果を載せるのが、いわゆる実績で、ちょっとここは成果の部分が実績にしては弱いかな、と私もちょっと気になっていましたが、残念ながら時間がなくてそこまで直しきれなかった部分があるので、それができるところは特に個別検討部会の検討の内容については加筆できると思います。あとはさっき委員長がおっしゃったアクションプランのインプットだけだろうというのは、書き方もあると思います。

委員長：

実は、我々よりも部会の人の方が現場でみているので、データの見方も含めてより現実に即した評価ができるのではないかとと思うのですが。

市民経済部長：

どこがそれをコメントするか、特に行政の部分については、これは当初予定していたとおりにできたとかできなかったとかは、行政評価の一環としてありますのでそれが分かるように見せていくというのは多分できると思います。それも限界があると思うのですが、アウトカムまでは難しいと思います。アウトカムは最終的に満足度として現れると思っています。

委員長：

満足度に対するコメントがアウトカムだと思いますので、政策的に重要な項目が達成されたとかなどのような書きぶりでもいいのかと思いますが、ただ、そこを検討するステップとして部会に一旦チェック表を投げてチェックしていただいて、その整合性を我々とキャッチボールするというかたちにシフトチェンジするのもひとつの方法だと思いますが。

市民経済部長：

個別検討部会がそこまで自分たちの仕事を認識しているか分からないですね。微妙です。

委員長：

そこは我々が答申できると思います。戦略をチェックして次の戦略につなげる必要があるので、そこは我々が品質管理をやって、ここはお願いします、最初は立ち上げでいろいろあったと思いますが、実は皆さんの役割はそういうところにありますよ、と言うのが我々の仕事だと思います。

市民経済部長：

今年できるところまで、ちょっと検討して、全部やりきれないところは見本のようなものを委員長、副委員長にお見せして、今年できなくても、評価あるいは助言をいただいて、各部会のあり方、やるべきことでいただければ、次に繋がるかなと思います。書きぶりについては、一つ二つやってみて相談させていただいて、それをそういうやり方で書きこんでちょうだい、みたいなかたちでやって、それを皆さんにお送りして、次の委員会に繋げていくことならできると思います。

委員長：

次の進行管理委員会が11月にあって、本部会議が12月ですよ。

市民経済部長：

それもどうなるかわからない部分もありますが。

委員長：

もし、事業を継続されて、本部会議の次に我々の意見が述べられるならば、最初の一年は部会を立ち上げていただいてありがとうございましたというところですが、二年目以降はこの評価も含めて、皆さんちょっとみていただけませんかということが12月に言えればと思います。その前に部会のリーダーに投げても構いませんが、それができれば、11月に我々が検討するというのもできなくはないと思います。

市民経済部長：

その辺のやり方は事務局で。観光課以外にも協会、商工会議所にも事務局がありますので。

委員長：

本当は今日の宿題となっているこのチェック表ですが、これをどうするのか決めてから進めなければいけません、これを我々が実際にやります、あるいは今度の11月までにやってこい、というのは厳しいかもしれませんね。去年のチェック結果があって、それに対するコメントというか、例えば各部会にこうしてください、という返し方はできるでしょう。たとえば、ホスピタリティ部会の項目について

はそういう動きがある、安全安心部会ではこういう責任があります、とかその棚卸しはできると思います。進行管理委員会では、棚卸しをした後に、どういう議論をしてください、というのをチェック表を参考に答申するというのがあるのかもしれない。あくまでも我々ができるのは、部会、本部に対してコメントというか答申をするということですから、検討してみてもいいのではと思います。そこは譲れないということであれば、やはり2週間位の時間をもらってやらないとできません。

委員：

時間の問題というよりも、例えば2ページ目、「いつでも誰もが鎌倉らしさを楽しめる」まちにしよう、と書いてありますよね。真ん中のところに、「大船まつりでイルミネーションが・・・」といわれてもね、はっきり言って分からないですね。

市民経済部長：

こういうことですか。ここのコメントは個別に線が引っ張ってある訳ではなくて、まとまりがある訳で、例えば、さっき中根委員がおっしゃっていましたが、1ページ目の鎌倉らしい再認識と鎌倉らしいもてなしをしようという目的の実現のために、これは大変寄与すると思う、あるいはこういう点が足りないのではないですか、むしろこういうことをやったらいいのではないですか、ということを整理して。

委員長：

そこを判断するのが難しい。

委員：

去年の提言と同じようなかたちになってくると思うんですね。たとえば、こちらの実績の概要で、ホスピタリティの項目として、たぶん、ここの個別部会で、特筆すべき成果というか、これは本当に意味のある話だとか、それがあろうと思うんです。それとプラスして、ここの部分が今後の一番の課題だとか、ここについて意見を述べたいとか、そういうところに特筆すべき成果というか、そういうものがあると思います。本当に力を入れてやろうとしている、たとえば、リボンステッカーの配布とかも、このままだとコメントができないのですが、このバッジは実際誰がつけるために製作するのか、観光客に配るためにあるのか、それとも鎌倉のホスピタリティ精神をアピールするために関わった人達が、今、国土交通省の大臣が代わって、すぐにビジットジャパンのバッジをつけていますよね、あのよう自分達やっていますよっていうのをアピールするためにバッジをつけるのかで、またコメントも違ってきますよね。ちょっとこの詳しい内容、たとえば、鎌倉らしいもてなしをしよう、という目標に対して、ここの部分を評価して欲しいとか、ここを指標としてあげている、それに対するコメントであったり、そういうものがあればいいと思います。配布とか募集とかだけではどういう風に、例えば5年目の見直しに向けてとか、目標があって、目標のために評価をしよう、この目標に対してここまで進んでいるとか、そういうのがわかりません。

委員：

我々の大きな目標は、分かっていますけれども、それぞれのイベントの項目で目標だとか、対象者だとか余り理解できてない。かといって全部それを見て全部評価しろというのも、少々無理があります。主体も分かってないですし、原局の皆さんは、分かってらっしゃって、できると思うでしょうけど、結構無理があると思います。

委員長：

重要なのは、推進本部にぶら下がっている、個別検討部会です。組織的には、推進本部と我々とは立場は一緒ですが、お互いに評価して、それをもって本部とか個別検討部会で現場の改善をする作業をしていきますが、その結果を上げていただいて、我々とキャッチボールをしていく。そこに我々の作業を絞って、制度設計としてアクションプランのチェック項目と各部会や推進本部とのデータのやり取りなどのキャッチボールがなされていなかったもので、それについては、新たにそういう仕組みにしたらいかがでしょう。去年は、部会の立ち上げの段階で機能していませんでしたが、今年というか来年以降は、そういった形にさせていただいて、我々は、むしろ今日出していただいた資料2の各個別検討部会でどういう成果がなされたのか、どういう事が議論されたのかということが重点項目で、それについて去年のチェック項目に照らし合わせて評価する、というに焦点を絞れば、少しはスムーズに作業が出来る気がします。なおかつ去年からの積みあげで議論ができるので、効率的かつ効果的かなと思います。出していただいたチェック項目をどうするのかは、これは、一旦個別検討部会の皆さんに投げてその辺の仕組みをある程度説明する機会を作っていた方がいいのではないかなと思いますが。

委員：

書かれている項目が、どういうものなのか分からない。各部会の責任者にここにきて説明してもらうなど、一番良いのではないのでしょうか。その方と直接キャッチボールした方が、こういう意見ができましたとか直接した方がよい。

委員長：

そのような仕組みは作れるんですか。

市民経済部長：

最初はそのように考えていたのでそれは、可能だとは思いますが、有効に機能するか心配です。

委員長：

いずれにしても最初は試行錯誤的に行って、有効なやり方を探すという意味で、少し時間を取って、各検討部会の方に出席していただくのが一番ですが、その代わりにペーパーをいただくとか、そういうのはいかがでしょう。

委員：

ここに部会の代表者を呼ぶのは私も抵抗感があって、実際にやっていたいいる方をよぶのではなくて、ひらたいところで、皆さんが意見を言って来年につなげていきましょうね、とかそういう場なら有効であると思います。

事務局：

個別検討部会では、自分の行っている課題については分かりますが、行政の各課が行っていることを評価するのは難しいと思います。今まで行っていたことと全然違うことを評価するようになってしまうので。行政評価はそれぞれの課で行っていますから、それをここに入れることはできます。全部ではないがほとんど出すことができます。個別検討部会ではもともとそのようなことをやっていません。

委員長：

全部でなくてもいいです。行政と一体となって評価される部会は、それについて評価してもらって、道路整備など純粹に行政がメインになっている評価は行政評価を出していただいて、それを踏まえて議論するというのもいいと思います。現場でやっている人が評価できないものは、我々も評価できません。

委員：

簡単に言うと正しいジャッジができないということです。専門分野以外のことで情報や知識が無いので、見直しすべきかそうでないかの根拠がこの資料では見当たらない。出来る範囲で判断できる資料があれば良いと思います。例えばビーチフェスタの荒天により中止という項目に対して、日程の見直しをするというコメントをするということのかということが分からない。道路のこととかも分からない。

委員長：

ある程度事務局でできるコメントというのはありますよね。行政評価を出していただいて、それと個別検討委員会の詳しい内容を比べてそれを基にこのチェックをしていくかというのなら出来ると思います。それを次回しますか。

市民経済部長：

どんなものができるか。委員長・副委員長にみて判断してもらいます。

委員長：

この評価は、行政評価の専門家がチェックして点数をつけるような作業です。少し我々には荷が重いものです。副委員長に少し意見をいただく必要があるのですが、今回は行政評価の項目と各個別検討部会の活動状況や作業結果の情報量を出してもらって、それをもってチェック結果を検討した方が良いと思います。ただ、3日前ではなくせめて1週間前に送付してください。毎年やり方が変わってしましますが、次回までに取りまとめをして、本部会議に答申していく。

委員：

皆さんの意見をフィードバックするところは、この表だと思います。ですから個別検討部会の人たちと同じフォーマットで話し合うと良いと思います。この表ではフォーマットがばらばらで、皆さんにフィードバックするのはすごく大変で、実際この項目について、推進本部は必要としていないかもしれません。個別検討部会と同じフォーマットで評価ができる方が一番良いと思います。

委員：

行政の仕事に対して評価をするものが多いので、大事でしょうが、それをこれとどう整合するか、すごく難しいと思います。

委員：

誰もが鎌倉らしいものを楽しめるまちで、その目標を意識して大船祭りが行われているかという実
行委員会でそのような話はまったくないので、フィードバックする意味がないと思うんですね。5年間で結果を出していくということでしたら、部会の人たちも認識している項目に対して評価して、それを年々精度をあげていく方が良いと思います。個別検討部会にこのアクションプランを渡しても意味が分からないし、資料として使えないと思います。

委員長：

そのへんのフォーマット作りを頑張ってください、推進本部でも資料の数字等の説明に終始するのではなく、お互いに照らし合わせられる表を作って、一方は行政評価で一方は個別検討部会の活動内容の対比できるものがあればいいと思います。次回までにいくつか例をあげていただきたいと思います。次回はこのフォーマットでチェックしてねというものをあげていただいて、それについて議論ということでいかがですか。

委員：

折角このような進行管理委員会というものがあって、現場でやっている人たちは汗をかいて行っているわけですが、よくぞやってくれたというような、少し主観的なコメントも入れながら、このようにしていきませんかという鑑づくりを、現場が心躍るような鑑にさせていただくとありがたいです。

委員長：

ありがとうございます。ここでいうチェック項目の表は、これに個別検討部会の取組みがどうなったか、行政評価がどうであったか。一方、それに対して、同じフォーマットで、我々がコメントする。一度作っていただいて、次回それでいきますか。今日宿題で積み残してしまって申し訳ないのですが、そろそろ時間もきてしまいました。一旦ここで終わらせていただいて、ご理解いただければ私と副委員長でもんで次回提示していききたいと思います。次回の日程も含めて事務局から説明をお願いいたします。

4 その他

事務局：

次回日程を説明いたします。今回は平成21年11月16日(月)10時から、場所は、本日より同じ第一委員会室を予定しております。

なお、進行委員会委員の任期は、平成19年11月19日より2年間の委嘱期間となっておりますので、本年11月18日をもって、委嘱期間が終了いたします。事務局としましては、要綱上は進行管理委員会の委員の再任は妨げないとなっておりますので、できるならば引き続き皆様に委員をお願いしたいと考えております。よろしく願いいたします。

引き続き委員を続けていただけるということによろしいですか。では、よろしく願いします。以上でございます。

委員長：

新しい市長になった場合はどうなるかわかりません。

市民経済部長：

いずれの市長になった場合も観光基本計画を推進していくことになると思います。

委員長：

時間になりました。いろいろな議論がありましたが、これで第6回の委員会を終了したいと思います。ありがとうございました。